



OLIVE ニュース 2020年12月号

月刊紙

1月の予定 4日 新年の挨拶 15日 避難訓練 20日 事業計画・予算案の提出、監事会

新型コロナウイルスに翻弄された一年でしたが解決の糸口がないまま年を越す事になりそうです。マスク手洗い、手指消毒、密を避けて自粛生活はどこまで続くのだろうか。よもや、ウイルスが次々と人を媒体に感染し、世界中がパニックになるとは誰が予想したでしょうか、経済活動と人の暮らしは一体のものだけにもう一度パニックに陥る時が来るのではないかと不安です。テレビでは、お歳暮合戦、クリスマス商戦等々自粛の人達を煽るよう放映されていますが矛盾を感じます。

ただ、一年を振り返り、福祉の現場でもクラスターが発生し易い危険な現場であることに変わりはありませんでした。そんな中、利用者の皆さんはよく頑張ってきたと思います。これもご家族のご協力の賜物と感謝申し上げます。利用者さんにとっても何がなんだかかわからない一年だったと思いますが、毎日の指導、訓練の中で日課として理解し、お出かけも危険が孕んでいることが分かるようになりました。ご家族の皆様も大変だと思いますが、どうか、この状態をキープした生活を来年も続けて下さるようお願い申し上げます。

来年こそはよき年になります様に。

理事長 遠藤節子

勝負の・・・

この号が出る頃、日本は、世界は、一体どうなっているのだろうか？昔見た映画「復活の日」を最近よく思い出します。見える脅威には人は対抗しますが見えないものには人は混乱をします。ある利用者さんに「もうコロナの話は聞きたくない」と言われました。全く同じ気持ちですがそれでも職員は笑顔で理想的な事を丁寧に伝えなければなりません。混乱を抑える事ができるのは安心感だからです。駄目な事もきちんと伝えますが、マスクや消毒などをすれば危険は減らせるという事を毎日伝え定着を促しており、実際にマスクの定着率はかなり高くなったと思います。ご家庭でも感じているかもしれませんが、普通の風邪をひく人がこの一年はほんとに少なくなっていました。コロナウィルスへの不安は尽きませんが、日常の健康度はかなり向上していると思います。ワクチンの話なども少しずつ出ています。勝負の3週間は、日本はぼろ負けだった気はしますが、むしろ新年からの方が勝負の1年のような気がします。見もしない何かを誰かに頼るのではなく、自分や家族、信頼できる人達と共にこの難局に立ち向かっていきましょう。 坂井 達雄

新職員紹介

12月から新しい職員が入りました。
主に運転業務を担当いたします。

せんが たかみつ
「干賀 隆光」さんです。

よろしくお願いします。



今年1年大変お世話になりました。
来年もどうぞ、
よろしくお願い致します。



<寄付、物品寄贈の皆様>

(順不同) 曳地 令子 様 渡辺 和子 様 吉田 マサ 様